

ROTARY SANJO SOUTH

国際ロータリー会長：グレンE. エステス（米国）

第2560地区ガバナー：横山 芳郎（新潟）

第四分区分会アシスタントガバナー：細井 増雄（三条）

会長 石山 莊一 幹事 佐々木 常行 SAA 丸山 征夫

三条南ロータリークラブ事務局 三条市旭町2-5-10（三条信用金庫本店内）

TEL：35-3477 FAX：32-7095 e-mail：info@sanjo-minami.jp

2004年11月15日 第1,722回

本年度 第15回例会



CELEBRATE
ROTARY

100 Years

ロータリーを祝おう

100年の歩み

2004-2005

【出席率】 会員64名中56名

【先々週出席率】 100%

【ゲスト】 2003～04年度 ロータリー財団奨学生 田中眞由美さん

【会長挨拶】 石山 莊一 会長

11月15日、今月で3回目の例会となりました。
今月は「ロータリー財団月間」です。財団奨学生の
田中眞由美さんをお招きして卓話をお願い致しました。
宜しくお願い致します。

例年1回は必ず夫婦で天気の良い日に気が向くとドライブをして紅葉を見に行き、目の保養、ストレス解消をしておりましたが、今年は中越地震の為に何となく出かける気分にもならずこれで終わるような気がします。しかし、ニュースでも報道していましたが観光地のキャンセルが相次いでホテル、旅館が大変困っているとの事を知り、何とか時間をつくり一泊温泉にでもと考えております。少しでも観光地が潤い、景気が良くなればと考えており必ず実行したいと思っております。

簡単ですが、会長挨拶とさせていただきます。



○ 横山ガバナー事務所より

1. 「ロータリー100周年記念広告」協賛会員（100社限定）募集のご案内

掲載日 2005年2月23日（水）新潟日報1ページ使用

体 裁 社名表記に統一

協賛料金 1社 20,000円

※南ロータリー枠：2社 ご希望の方は幹事または事務局までお申し込み下さい

2. グレン・エステス RI 会長とともにロータリー100周年を祝いましょう！

「祝賀会議」のご案内

○本会議

と き 2005年4月30日（土）10:00～17:00

ところ 新高輪プリンスホテル 国際館バミール

登録料 10,000円

○RI 会長ご夫妻歓迎晩餐会

と き 2005年4月29日（金）18:00～20:30

ところ 新高輪プリンスホテル 国際館バミール

会 費 18,000円

ニコニコBOX

～11月15日¥17,000 今年度累計¥452,560～

石 山 君 ロータリー財団月間です。財団奨学生の田中眞由美さん卓話宜しくお願い致します。

佐々木君 財団奨学生の田中眞由美さん、ようこそ三条南ロータリークラブへ。お話し楽しみにしています。

西 野 君 田中眞由美さん、卓話ご苦労様です。BOXに協力致します。

馬場（一）君 国際奉仕委員会です。海外研修旅行企画ができました。よろしくお願いします。

吉田（秀）君 12日午後の会が東京にあり朝8時の新幹線で新潟へ、羽田へ飛んで一泊して13日午後2時に戻りました。新幹線が復旧すれば日帰り出来るのに・・・費用も約倍掛かりました。

岡 村 君 昨日はバーテンダー協会三条支部カクテルパーティにお忙しい中多くの方々に来ていただきました。ロータリーの先輩方もいらしていただきました。どうも有難うございました。

嘉 瀬 君 確実に寒さが近づいているようです。雪のない冬だといいのに・・・。

大原君、坂本君、滝口君、田代君、田中（久）君、田中（悌）君、永桶君、野崎君、渡邊君
BOXに協力致します。

佐藤（秀）君 今日、結婚記念のバラの花束が届きました。有難うございました。

■□■ロータリー財団月間■□■

「ロータリー財団奨学生としての務め」

2003～04年度ロータリー財団国際親善奨学生

田中 眞由美さん（新潟大学 大学院）

私は2002年に、三条ロータリークラブの推薦の下、一学年度国際親善奨学生に選ばれ、2003年8月半ばから今年2004年の6月末までの約10ヶ月半、イギリスに留学しました。私が住んだ町は、イングランド中部に位置する、コヴェントリーという人口約30万人の工業都市です。コヴェントリーは19世紀以降自動車等のエンジンの製造で発展しました。しかし、戦車、船舶、航空機を生産していたために、第二次世界大戦ではドイツ軍による爆撃を受け、大きな被害をこうむりました。その爆撃の被害をうかがわせる、大聖堂の廃墟が街の中心部に今でも残されています。



私が入学した教育機関は、コヴェントリーのはずれ、隣接するウォリックシャーという州とのちょうど境目にある、ウォリック大学です。私はウォリック大学の大学院、修士課程で、英語教育を学びました。日本の大学院では修士号を取得するには2年間在籍しなければなりません、イギリスの大学院では、一年で修士号が取得できます。新学期が始まりましたのが昨年の10月で、今年の9月まで在籍していました。

私が在籍していた大学院は、約100人の学生が、様々な国々から集まる大きな研究機関です。研究分野が英語教育ということもあり、英語を外国語として教えている国々から来た生徒、とりわけアジア系が多く、日本人は私を含めて5人いました。国籍、年齢、経歴の異なる生徒と、それぞれの国の英語教育の特徴や問題点等を話し合う機会が多く持てたことは、大変貴重な経験でした。また、これまで受けたことのない教育を受けることができたのも、素晴らしい経験でした。私の在籍していた大学院には、多くの教員がおり、ティーム・ティーチングという形式で、教員が二人ないし三人で授業を行いました。一時間半や、二時間という長い時間のなかで、講義する教員が替わる時にはめりはりができ、講義のポイントがわかりやすく、グループ・ディスカッションの時には、生徒の数が多くても、教員を交えて話し合うことができました。イギリスではまた、チュートリアルという指導教官との面談が頻繁に行われます。チュートリアルは指導教官との個人面談の時もあれば、グループ面談の時もあり、私の論文指導教官はよく、グループ・チュートリアルの時間を設けたので、似たようなテーマで研究する生徒と話し合う機会を多く持つことができました。

イギリスの大学院生は、一年の間に多くの授業と課題、チュートリアル、最後に論文執筆と、勉強で多忙な日々を送っていますが、やはり私も例外ではありませんでした。外国での慣れない生活や言葉の違い等も加わって、最初の数ヶ月は本当に精神的な余裕がなく、また日本にいる家族や友人が恋しくて、淋しい思いもしました。しかし、友達と励ましあったり、愚痴を言い合ったりすることで、心に余裕を持てるようになりました。特に、寮の友達の存在は大きいものでした。私は大学の敷地にある学生寮に住んでいましたが、その寮は大学院生用で、しかも寮を共有していたのは女性だけでしたので、それぞれが持っている悩みも似ていたことから、ざっくばらんに話し合うことができました。寮の友達は、インド人、ポーランド人、モロッコ人、二人の中国人の、計5人で、そのうちのモロッコ人と中国人のう

ちの一人は、私と同じ大学院に在籍する生徒でしたので、勉強についても話し合うことができました。また、私たちはよく台所でそれぞれが作る料理や、文化についてもよく話しました。料理という日常生活の一場面も、異なる文化を持つ友人と共有することで、楽しい気分転換となるだけでなく、互いの文化を理解しあう貴重な機会となりました。

寮生活において、互いの文化を理解し、尊重するということがそれほど難しいことではなかったのは、私の寮の友達が寛容で、異文化に興味を持っていたからだと思います。しかし、もちろん全ての人がこのように、異文化を尊重する姿勢を持ち合わせているわけではありませんでした。私自身、イギリスに着いたばかりの頃は他の留学生の異なるものの考え方に反発心を抱いたこともありました。新学期が10月に始まる前の5週間、私は留学生のための、事前英語コースを受講していました。その5週間の間に知り合ったトルコからの留学生と、日本人の捕鯨について口論することもありました。お互い異なる倫理観を持ち、自国の文化を誇りに思っていたため、全く話がかみ合わず、結局言いたいことをお互いに言って終わってしまいました。しかし、その口論の後、異なる倫理観、宗教観や価値観を理解することは重要で、その違いによって他者を評価してはならないのだと深く反省しました。このことがあってからは、困惑するような文化的な違いに出会っても、不愉快な表情をしたり、避けたりするのではなく、質問したり、観察したりすることで、むしろ積極的に違いを理解する姿勢をもつことができました。

私には、大学院や寮で知り合った、異なる文化を持つ留学生の友達が多くいましたが、ロータリーの奨学生として、地元のロータリアンとの交流からイギリスについても多くのことを学ぶことができました。とりわけ、私のホストカウンセラー夫妻はイギリスの文化を体験する機会を与えてくださいました。私のホストクラブはラグビー・ロータリークラブといい、ラグビーはコヴェントリーからは車で約30分のところにあります。この町はスポーツのラグビー発祥の地で、ラグビークラブの建物のすぐ隣にもラグビーのフィールドがありました。私のカウンセラーのレックスは、地元の高校の校長、奥様のマリオンは小学校の音楽教師で、私が将来教員になりたいと言ったところ、マリオンは私を小学校に案内して授業の様子を見せくださり、レックスは高校の演劇部によるロミオとジュリエットの公演に招待してくださいました。また、カウンセラー夫妻はクリスマスや年末年始にも自宅に招待してくださり、家族と離れている私が淋しい思いをしているのではないかと気遣ってくださいました。夫妻はよく、私の様子を見に大学に会いに来て、困ったことがあったらいつでも力になると言ってくださいましたが、その言葉は私にとって大きな精神的支えとなり、留學生活において不安を抱くことはありませんでした。留學期間中、忙しい勉強の傍ら、ロータリーの行事にも積極的に参加し、親善奨学生として充実した日々を送ることができました。多くの地方クラブを訪問し、三条の文化や、私が学んでいる英語教育の話など、様々な事柄についてスピーチを行いました。クラブを訪問するときに着た着物や、スピーチの他に披露した生け花も、イギリスの人々に興味を持っていただけました。このようなクラブの訪問によって、日本の文化を紹介し、またロータリアンとの交流からイギリスの文化に接することができ、親善奨学生の任務の殆どを果たすことができましたが、国際親善奨学生たちと取り組んだ募金活動によって、さらなる国際貢献をすることができました。私の属していたイギリスの1060地区には、15名の国際親善奨学生がいましたが、その中の一人が、エジプトに逃れてきたスーダン難民の子どもたちのために、『Ambassadorial Challenge 2004』という募金活動計画を立ち上げ、私もその活動に参加しました。スーダンの国内宗教紛争からエジプトに逃れてきた難民は、経済的理由から、エジプト政府や国連から物質的援助をあまり受けられず、難民の子どもたちの教育施設、教材等の不十分さはもちろんのこと、教育現場における食糧不足も深刻な問題となっており、募金活動の目的は、教育環境を少しでも改善することでした。奨学生の一人が立ち上げたこの募金計画は、実際のスーダンの子どもたちとのふれあいの中から生まれました。彼は2002年にエジプトに赴き、数週間、難民教育施設で子どもたちにボラン

ティアで英語を教え、そこでの交流から子どもたちの教育環境が不十分であることを実感しただけではなく、貧しい環境でさえ子どもたちが明るく生きていたことに心を打たれ、せめて教育環境を可能な範囲で整えたいと思い、募金計画を立ち上げました。日本では、屋根や壁のある教育施設、栄養面に配慮のいきわたった給食、コンピュータまで、子どもたちに与えられている一方で、海の向こうではその当たり前の環境が、決して手の届かない贅沢となっている経済的格差に、私はひどく心を揺さぶられ、この活動に参加しました。また、ロータリー国際親善奨学生を務めは、ホスト地区のロータリークラブで文化紹介のスピーチを行うことだけではなく、地区の奨学生が団結し国際貢献を他の形で実践することにあると思ったことも、参加の大きな理由の一つでした。実際的な募金計画の目標金額は、総額3千ポンド、約60万円で、奨学生一人当たり、最低200ポンド、日本円にすると4万円を募ることを目標としました。私のスポンサークラブの三条ロータリークラブは、この計画に深い共感を示してくださり、10万円もの寄付をしてくださいました。またホストクラブでスピーチをする前に、募金活動の話をしたところ、多くのロータリアンからも寄付をいただくことができました。私個人の募金活動以外にも、他の奨学生と共に、1060地区のロータリークラブで募金活動を行いました。私を含めた日本人の奨学生が三人、韓国人、台湾人、ルーマニア人の6人で、それぞれの国の文化を披露したり、バザーに出す品物を持ち寄ったりしました。バザーで集められた売上金、そして奨学生が各自で集めた寄付金は全て、エジプトのカイロにある、スーダン難民の児童教育機関『アフリカン・ホープ・ラーニングセンター』に送られました。

国際親善という大きな目標を共に持ちながら、学業等の忙しさから、団結心を分かち合う機会の乏しい奨学生にとって、スーダン難民の子どもたちの教育環境の向上という特定の目標を持てたことは、支援を受ける子どもたちだけではなく、親善奨学生にとっても意味のあることでした。また、スポンサークラブにもこの国際募金活動への協力を働きかけ、実際力を貸していただけ、活動に参加した奨学生はクラブとスーダン難民との間にも国際協力という見えない架け橋をかけることに貢献できたのではないかと思います。私自身、三条ロータリークラブからの協力に大変感謝いたしました。この募金活動はロータリーインターナショナルに取り上げられ、ホームページに載ることが決まりました。そのことによって、この活動が今後未来の親善奨学生たちに対して影響力を持ち、国を超えた助け合いの精神がいつそう育まれることを願います。

伝言板

南RCの皆様へ

三条南ロータリークラブのメールアドレスが変わりました。

(三条RCと共有 → 三条南RC独自)

E-メール info @ sanjo-minami . jp

四つのテスト

一言行はこれに照らしてから

I 真実か どうか

III 好意と友情を深めるか

II みんなに公平か

IV みんなのためになるか どうか